

2009年度 早稲田大学 商学部

日本史 解答例

1 古代の政治 <やや易>

問A 2 問B 5 問C 4 問D 5 問E 5

問F 2 問G 3 問H 3 問I 3 問J 6

「適当なものがなければ6をマークせよ」とあるので消去法が使えないが、人間科学部の同様の問題とくらべて正誤判別がしやすいので、ほとんど難問はない。問Fは長岡京が「乙訓郡」にあったことを覚えていなくても、平安京が同じ山背国でも葛野郡にあったことを覚えていれば推測で解けた。

2 古代・中世の史料 <易>

問A 5 問B 2 問C 2 問D 3 問E 4

問F 4 問G 3 問H 5 問I 5 問J 3

一転して消去法を使って考える。とくに史料Ⅱは未見史料なので、史料を読解してこれが何という事件のことを記したものなのかを判別できなければならない。それができずに大きく失点してしまった人もいるだろう。

3 島原天草一揆 <やや易>

問A 2 問B 4 問C 4 問D 4 問E 2

問F 1 問G 5 問H 3 問I 2 問J 2・4

問E・Gのような問題は、独学の受験生は知識として単純暗記しようとするか、あるいは途方に暮れて放り出してしまいがちである。実際は知っていて解くのではなく推測して解く問題だった。逆に問Jこそ単純に覚えておいて解く問題である。もっとも選択肢のすべてを覚える必要はなく、あくまでも出題データに応じて拾うのが効率の良い学習である。

4 幕末～明治時代の正誤問題 <標準>

問A 2・5 問B 2・3 問C 1・5 問D 2・4 問E 2・4

問F 1・3 問G 2・4 問H 2・5 問I 3・5 問J 2・3

問D・Fは難問。残りの問題はなぜ難問でないか疑問に思うかもしれないが、早稲田大をはじめ多数の大学の入試問題から受験日本史のポイントをつかんでいれば解ける問題だからである。単に教科書や用語集を使って学習しているだけでは難しい。

5 近現代の労働者 <易>

問A 4・5 問B 1・4 問C 2・5 問D 1・3 問E 3・5

問F 幣原喜重郎 問G 五大改革 問H 団体交渉権

問I 全日本産業別労働組合会議 問J 労働関係調整

正誤問題の誤文の中には、かなり細かい部分が誤っているものが多い。しかし、慎重に読んでいけばそれを見破ることは十分可能なレベルである。本年度の人間科学部の正誤問題とはそこが異なっている。問Gは「示唆した」と続くので「五大改革指令」では不正解かと思われる。

6 戦前の統制経済と戦後の高度成長 <易>

問A 税負担だけではまかなえず日銀引受の赤字国債を乱発し紙幣発行量を増やしたため、悪性インフレが進み物価が上昇した。(55字)

問B 臨時資金調整 問C 物資動員 問D 三ちゃん 問E 核家族 問F 消費

問G 手塚治虫 問H 日本万国博覧会(大阪万国博覧会)

本学部の論述問題は指定語句が与えられていて、かつ文字数が少ないため、自分で推論しながら文章を組み立てれば正解できる可能性が十分ある。今回もそうであった。

講評

本学部では正誤問題が非常に多く、しかも解答を2つ選ばせる問題では完答しないと得点にならない。しかし、決して難しすぎて解けないわけではない。9割正解も十分可能である。もしこれを難しいと感じたなら、早稲田の日本史を解くためのポイントを知らなすぎたか、日本史を用語暗記だけですませてきたため、推測して解く能力を養っていなかったかのどちらかだろう。